

平成二十六年度

和歌山信愛中学校

入学試験 前期日程

国語

受験上の注意

- 一 問題用紙は1～21ページまでです。
開始のチャイムが鳴つたら確認して始めなさい。
- 二 受験番号は、問題用紙と解答用紙の両方に書きなさい。
- 三 終了のチャイムが鳴つたら、問題用紙の上に解答用紙を開いたまま裏返しておきなさい。

（解答は、句読点や記号も一字分と数えて記入すること。）

受験番号

【二】次の問い合わせに答えなさい。

問一 次の——線部①～④の漢字の読みをひらがなで答えなさい。また、——線部⑤～⑩のひらがなを漢字に直しなさい。

① 万に備える。

② 快い音楽の調べ。

③ 穀物の価格が上がる。

④ 寒暖の差が激しい。

⑤ 父がつとめている会社。

⑥ 運動会が雨で明日にのびる。

⑦ 決勝戦でライバルにやぶれる。

⑧ ピアノのえんそうを聞く。

⑨ よくじつは文化祭だ。

⑩ とても親こうこうな人だ。

問二 次の①～⑥の一線部はそれぞれどこに直接かかっていますか。記号で答えなさい。

- ① だれかが 大声で ア ぼくの イ 名前を ウ 呼んだ。
② 兄は ア スポーツの イ 中では ウ バスケットボールが エ 得意だ。
③ 小さな ア 白い イ 犬が ウ 道に エ 飛び出した。
④ 明日 ア 町へ イ 母と ウ 買い物に エ 行く。
⑤ たとえ ア 走つても イ 予定の ウ 電車には エ 間に合わない。
⑥ 机の ア 上の イ あの ウ 本は エ 私の オ 教科書です。

問三 次の①～⑤の三字熟語と同じ構成の熟語を後から選び、それぞれ記号で答えなさい。ただし、同じ記号を二度使うことはできません。

- ① 別世界 ② 不公平 ③ 積極的 ④ 発表会 ⑤ 市町村

ア 松竹梅 イ 観察力 ウ 無重力 エ 新時代 オ 機械化

【二】次の文章を読んで、後の問い合わせに答えなさい。

□ 空気の中には、実は氣体以外にエアロゾルと呼ばれている小さな粒子りゅうしがたくさん浮遊している。そして、これらのエアロゾルが存在することで、①空気が空氣らしくなっている。

「空気が空氣らしい」という感覺を説明せよと言わると、少しやっかいだが、説明を試みてみよう。
たとえば、海岸に行けばどこからともなく磯の香りいそのかおりがする。遠くを眺めると、景色が何だかぼんやりして見えることがある。雲が湧いてくれば、やがて雨が降つてくるように思う。あるいは工事現場を通りかかるとなんだかほこりっぽくて鼻がむずむずする。近くにある工場の煙突から煙えんとうがもくもく出てくるのを見ているうちに、くしゃみが出てきた。このように、いろいろな場面で経験する現象を通して、「空氣らしさ」というものを感じることができる。

このエアロゾルと総称しゆうされている中に、大気汚染物質の代表格の硫酸ミストもあれば、黄砂こうさも含まれている。そして、微生物も含まれているのである。

X 大氣中から採集した微生物の中には、何という名前の細菌きんなのか全く分からなかつたり、□ A 名前は分かつたものの、地球上でどんな働きをしているのか不明だつたりするものも少なくない。□ B そのような菌が「人間にとつて良いのか悪いのか」ということが分かるはずもない。

それにもかかわらず私たち人間は、いつの頃ころからか、②空気に対おもてして恐ろしく単純なイメージを持たされてしまつていて。

「空気は氣体でできている」

「空氣の主要な組成は酸素と窒素ちうそのガスである」

「わずかに水と二酸化炭素が混じっている」

などに代表される空氣のイメージである。

空気については小学校や中学校で勉強するので、私たちの持つ感覺は、学校教育のたまものなのであろう。この感覺は、一言で言つてしまえば、きわめて無機的である。

そのような感覺を持つた人が、大気中に多種多様な微生物（もちろん目に見えないものが大多数）が浮遊していると聞かされると、たいてい「何か不気味で怖いね」と言う。確かに、目に見えないくせに何かが存在しているという狀態は人を不安に陥れる。

〔C〕人は「目に見えない狀態とは、何事も起きない狀態」であつてほしいと願つている存在だからである。

まして、空气中に浮かんでいるものが細菌などであると聞かされれば、即座に「病原性のなんとか菌」を思い出してしまい、ますます不安になつてくる。

〔II〕私たちの空氣を見る目（空気に対する感覺といつてもよいが）は、きわめて無機的である。これほど生き物と深い関係がある存在であるのに、空氣を形容する言葉は、「からつとした空氣」「ひんやりとした空氣」「冷たい空氣」「生暖かい空氣」など、ひどく無機的な感じがする。〔1〕

空調機の調整メモリーも、「温度」「風向」「風量」「加湿」などひどく味気ない。通常、この空氣をあたかも微生物がたくさん浮遊している海のように想像する人は少ないのであろう。であるから、そのような状態になつたら（現実にはそれに近いような気もするのだが）、きわめて大変な事態だと考えてしまふのかもしれない。〔2〕

長年黄砂を研究してきて、この頃私が感じるのは、「空氣を利用しているのは人間だけではない。目に見える生き物、そして目に見えない生き物も全て何らかの形で空氣を利用して生きている」ということである。とりわけ、目に見えない微生物は、目に見えないだけにどんな利用の仕方をし、どんなとき人に人間と衝突したり競合したりする（こんなときには、人間に對してよからぬことが起きるのであろうが）のかが分かりにくい。分かりにくいだけに、興味も湧くということだ。〔3〕

地球の空気が今のように酸素が二〇パーセント近くも占めているような状態になつてゐるのは、微生物の営々とした働きによる

ものだ。微生物は、人間が地球上に登場するよりもはるか以前から地球上にいたのである。《4》

そうすると、生命史の上では人間の先輩である微生物の先祖が空気中を盛んに行ったり来たりしていいたところに人類が登場したということが想像できる。人類は進化の過程で③微生物たちとのつきあい方を学習していくたのではないだろうか。《5》

人間の大腸には無数の微生物が住んでいる。これらの菌は、人類の先祖に当たる類人猿^{えん}がこの世に登場した頃から彼らの大腸に住みついて、共生関係を作っていたに違いない。^{ちが}いや、類人猿の大先祖である哺乳類^{ほほ}がこの世に登場した頃から、その共生関係が成立していたのではないだろうか。

そのように考えると、大腸に住む微生物たちと我々人間は、ともに生きともに死ぬより他はないのであり、たがいに分かれ難い関係にあるのである。

また、空気中の微生物と人間の関係にもこれと似たようなものがたくさんある。先日、私が金沢市内を観光していた時のことである。街道筋にあつた酒屋の玄関先に「酒蔵見学できます」の看板を見つけ、見学させてもらうことにした。すると、見学の初めに「④お履き物^はを替えていただきたいのですが」と言われ、店が用意した履き物に履き替えた。ところが、その履き物がきれいかというと、そうでもない。軽快に歩けるような運動機能の高いものかというと、そうでもない。デザインがその酒屋の宣伝によろしいようなものかというと、そうでもない。

大事なのは、長くその蔵^{くら}で使われていたという点にあつた。その蔵に住み着いている※麹菌などの微生物がその履き物にもついているだろうし、その履き物にくつづいている土の汚れ一つとっても、それらの微生物にはおなじみのものなのである。

つまり、ここでは、微生物がせつせと活動して作りあげた環境が、外からの新たな菌やカビなどの微生物によつて破壊されないよう人に人が守り、そのかわりに、人間は「酒」^{さけ}という恵みを受けるという関係が形成されているのである。私たち人間は、空气中に見えない微生物や細菌が浮遊しているなどと聞くと、すぐに不安を抱いてしまうが、実は微生物からの恩恵も少なからず受けているのである。

さらに、よく考えてみると、空氣中に浮遊している微生物は、ときには私たちの皮膚にとりついたり、呼吸を通して気管の壁面にとりついたりしている可能性が高い。また、食べ物や飲み水を通して体内に入ってきたりすることもあるだろう。とすると、生まれてこの方、私たちは絶えず大氣中に浮遊している微生物を体に入れて来たということになる。

ここで柿川真紀子さんが中心になって進めてきた研究の結果を紹介しよう。「正体が判明した空氣中の微生物のほとんどが『何をしているのか分からぬ』グループである」というものだ。

今では私も彼女の報告を聞くことに慣れたが、初めの頃は「そいつは空氣中で何をしている菌ですか?」「何かの役に立つているのではないですか?」と、やたら質問していた。

何事もしていない存在というのが不思議というか、腑に落ちなかつたのであるが、考えてみれば⑤これはまさしく人間の自分勝手な質問であり、人間にとつて良いものと悪いものに性急に分けたがつて、いる姿が見え見えである。

世の中そんな単純なものではないよ、と分かっていながら、目に見えないものが相手になつてくると、ついついアプローチが單純になつてしまふ。

そして、何をしているのか分からぬ連中が圧倒的に多いからこそ、人間は口や鼻、さらには皮膚を通して空氣中の微生物が体内に入つてきていても、何事も感じず、何事も起きない生活が送れているということなのだろう。

ただ、他の動物や植物にとつてどういうことになるのかは全く分からない。やみくもに不安がつたり恐れたりせず、本当のところはどうなつてているのかと考へること、これが必要だろう。

このことが分かれば、空氣という空間を人間はもちろんだが、目に見えない生物たちがどんなふうに利用し、互いに関係しあつてゐるか、見えてくるだろう。大氣圈といふ「公共広場」とでも言えどよいか。空中を浮遊する微生物と人間は様々な関係の網で結ばれています。

(岩坂 泰信『空飛ぶ納豆菌』より)

注 ※ 酵菌：酒・みそ・しょうゆなどの製造に利用される菌。

問一 線部①「空気が空氣らしく」とあります、人間がそのように感じる時として最も適当なものを次の中から選び、記号で答えなさい。

- ア 空気中にエアロゾルを見つけた時。
- イ 学習で空気に関する知識を得た時。
- ウ 空気_ADDRESS_に存在する何かを五感でとらえた時。
- エ 呼吸によって空気のありがたさを実感した時。
- オ 空気_ADDRESS_に存在する微生物の働きが解明された時。

問二

A
 C

に当てはまる言葉として最も適当なものを次の中から選び、それぞれ記号で答えなさい。

ア ところで イ なぜなら ウ あるいは エ むしろ オ ましてや

問三 線部②「空気に対して恐ろしく単純なイメージを持たされてしまっている」について

- (1) 人間が持つそのようなイメージは何によって作られたものだと筆者は考えていますか。本文中から四字でぬき出して答えなさい。

- (2) また、そのイメージとはどのようなものだと筆者は考えていますか。「うなイメージ」につながるように本文中から七字でぬき出して答えなさい。

問四 線部③「微生物たちとのつきあい方を学習していった」とありますが、その結果人間と微生物はどのようなかかわりを持つようになったのですか。本文中から五字以内でぬき出して答えなさい。

問五 本文中から次の一文がぬけ落ちています。どこに入れるのが適当ですか。本文中の『1』～『5』から選び、記号で答えなさい。

彼らは空気を利用することにおいては、人類よりも長い経験を積んでいるはずなのである。

問六 線部④「お履き物を替えていただきたいのですが」とありますが、「履き物」を履き替えるのは何のためですか。本文の言葉を使って六十字以内で説明しなさい。

問七 線部⑤「これはまさしく人間の自分勝手な質問」とありますが、この質問がどのような点で「自分勝手」と言えるのですか。解答らんの形に合うように四十字以内で説明しなさい。

問八 線部X「大気中から採取した微生物」とありますが、それらと接する際に筆者が大切だと考えていることはどのようなことですか。本文の〔II〕の部分から四十字以内でぬき出し、最初と最後の五字を答えなさい。

【三】次の文章を読んで、後の問い合わせに答えなさい。

「今日も、……おじいさん来てるのか？」

受付の小窓から待合室を覗いて、江田先生が聞くと、二人の若い看護婦が同時にうなずいた。

「待つているんでしょうか？ 呼ばれるのを？」

「だって、診察券は出してませんよ。……治療が終わつたのは知つてゐるはずですもの」

「いつたい、どういうつもりなんだろう？」

江田先生と看護婦たちは、待合室の隅のベンチで背を丸めている山崎さんを眺めた。

江田医院は、駅前商店街のはずれにある小さな個人病院である。内科が専門だが、外科もたいていのことなら診ていてる。

全体の患者数はけつして多くはないが、そのこぢんまりした待合室には、いつも通院患者が三、四人いる。——風邪をひいた主婦や怪我した子供を連れた母親、高血圧や心臓病のお年寄りたち。ほとんどが近所の人で、知り合いが顔を合わせると、待合室はお互いを慰め合う社交場になる。

江田先生は五十代後半で、大きな恰幅の持ち主である。二人の看護婦が受付やカルテの準備、患者のお世話、注射、薬の受け渡し、会計などと、こまねみのように動きまわるなかで、①白衣の先生はどうしりと肘かけ椅子におさまっている。

江田医院が近所の人たちに評判がいいのは、先生が診察をけつして急がないからである。

一人一人の患者とゆっくり話をする。患者のいいことに、しつかり耳を傾ける。a嚥んで含めるように、病状や治療法を説明する。——だから、待合室で待つてゐる時間は当然長くなるが、誰も不平をいう者はいない。

山崎さんは、ベンチの端に腰掛けている。小柄な体を縮こませ、背中をまるめてうすくまつてある。禿げ上がつた頭を、右肩の方へわずかに傾げて、目をつむつてゐる。冷房のほどよくきいたなかで、居眠りしているようにも見える。

「先生、どうしたらいいでしよう？」

②このままじや、ほかの患者さんの手前もありますし……」

「家族の方に電話したほうがいいんじやないでしようか？……山崎さんが通院しなくてよくなつたのを、家族は知らないのかも
しません」

看護婦たちは、いまにも電話をかける気配を見せた。江田先生は、まあ待て、と手を振った。

カルテには、山崎さんの職業は植木職と記載してある。

二か月前、仕事中に右肩を強く打つて、江田医院に抱ぎ込まれた。骨に異常はないが、筋を傷めていて、右腕が上がらなくなつた。それを、七十三歳の年齢にしては根気よく毎日通院して、なんとか回復したのが一週間前である。

あとは自宅で塗布剤をつづけていればよい、ということで通院の必要はなくなつた。

ところが、山崎さんは、それから毎日欠かさず通つてくるのだ。看護婦が、

「もう治療は終わつたんですよ」

と何度もいい聞かせても効果はなかつた。毎朝八時半になると、待合室に姿を見せるのである。

そして、午前中いっぱいベンチにいて、お昼すぎにようやく腰を上げる。

その間、通院患者の中には、山崎さんを氣味悪そうに横目で見る者もいる。診察室から呼ばれることのない老人が、いつもベンチにいるのだから、不審に思うのも無理はない。

山崎さんは、待合室のほかの人たちと口をきくわけではなく、目を見合わせるわけでもなく、ただじつとうずくまつているだけなのである。

「もしかすると、何か目的があるんじやないだろうか。……たとえば、通院中に知り合つた患者さんがいて、その人に会うためとか」

江田先生の推理に看護婦たちは目をまるくした。今まで思つてもみなかつたことだ。

「待合室で親しくなった人がいるなんて、考えられません。……山崎さんが、誰かと口をきいたことなんてあつたかしら」

「そうよね。……わたしなんか、偏屈なおじいさんだなって、いつも思つてましたもの」

「そういえば、山崎さんのむつりだんまりで、江田先生も問診にてこずつた覚えがある。」

やがて診察時間になつたので、江田先生は肘かけ椅子に大きな腰をどつかとおろした。

いつもの通りの念入りな診察が、ゆっくりと行われて、午前中の診察が一段落したとき、

「……やつぱり③先生の推理どおりみたいです」

看護婦が一人で来て、そつといつた。

「ずっと観察してましたら、山崎さんの目がときどき薄く開くんです。……それが、玄関に患者さんが見えたときなんです」

「やつぱり誰かを待つてゐるんです、先生」

江田先生は、満足げに微笑みながらうなずいた。

「おじいさん、まだいるのかい？」

「ええ、たいてい十二時すぎまでいますから」

「じやあ、ここに呼んでみてくれないか」

④山崎さんが、不安そうな表情で診察室に入つてきた。顔面に彫り込まれた深い皺の間に、頑固そうな小さな目とへの字に結んだ唇が見えた。

「まあ、お掛けなさい。……腕の状態は、どうですか。もう痛まないでしよう？」

江田先生が、いつものように大きな体を肘かけ椅子に預けたまま話しかけた。山崎さんは、小柄な体をさらに小さく縮めるようにして、うなずいた。

「待つている人に、なかなか会えないようですね。……どなたを待つてゐるんです？」

いきなり、ずばりと聞いた。山崎さんは、まるで悪事を咎められたように体をこわばらせた。

「分かんねえんです。……それが」

「分からないつて、どういうことなの？」

看護婦が、横あいから口を出した。それを押しとどめて、江田先生が優しくいった。
「話してごらんなさいな。……力になれるかもしれないから。どうですか？」

すると、山崎さんは薄手のジャンパーのポケットから煙草の箱のようなものを取り出した。

「約束したんです。こいつをやるって……」

山崎さんが箱を開けると、つややかに黒光りする生き物が、鉄状の頭部を覗かせた。

看護婦たちが、おおげさに悲鳴を上げて飛びのいた。

「ほう。……これは、みごとなクワガタだ」

江田先生は、たくましい胴体を巧みにつまみ上げた。クワガタムシは、足を激しく動かした。

山崎さんが、^⑤重い口で少しずつ話したところによると、このクワガタムシは一人の男の子のために採ってきたのだという。

一か月と少し前、山崎さんは待合室で、五歳ぐらいの男の子と出会った。——初めは言葉を交わさなかつたが、二度目に会つたとき、男の子は一冊の本を抱えて山崎さんのそばに寄つてきた。

「おじいちゃん、この虫、知つてる？」

本にカラー写真が載つていて、それがクワガタムシだったのだそうだ。

「ああ。……こいつなら、うちの裏の林にいっぱい出てくるよ。もつと大きなやつがね」

「ねえ、生きてるやつ？ ぼく、ほしいなあ」

「いまは、まだ出てこないがね、あと一ヶ月もすれば捕まえられるさ」

山崎さんは、珍しく口が滑らかになつたらしい。相手が幼い子供なので、むつり顔で黙つてゐるわけにはいかなかつたのか
かもしれない。

「じや、出できたら、捕まえてね。約束して」

「ああ、いいとも。……ひと月したら、きっと持つてきてやる。約束するよ」

たつたそれだけのことだつた。どこの子か知らないし、なんという名前なのかも知らない。青白い顔をした弱々しい男の子が、
急に瞳を輝かせて、その頬をいつとき上気させたのが印象的だつたそうだ。

まもなく母親らしい女性が診察室から出てきて、そそくさと男の子を連れて帰つていつた。男の子は靴をはきながら、大声で山
崎さんにいつた。

「きつとだよ。……忘れないでね」

怪訝そうに振り向いた⑥母親の目が涙でうるんでいるのを、山崎さんは目ざとく認めた。そのためかどうか、山崎さんは男の
子のことが忘れられなくなつていた。——しかし、男の子とはそれ以来、一度も会うことがなかつた。

「なるほど、そうでしたか。……約束の一ヶ月が経つても、その子は現れないとですね？」

江田先生が聞くと、山崎さんは恥ずかしそうに下を向いた。そして、低い声で呟いた。

「毎朝、生きのいいクワガタを捕まえてきてたんだが。……子供のことだから、あるいは本人のほうが忘れてしまつたのかもしけ
ねえね」

看護婦たちが、そばで溜め息混じりにいつた。

「そうよね。……そんな小さな子が一ヶ月前の約束を覚えてるわけないもんねえ」

「山崎さんて、いいところあるのねえ、見直しちやつた。……ほんとは、すごく優しいんだ」
すると、山崎さんは顔を赤らめ、すぐに眉根を寄せて難しい表情をつくつた。

「そうじやねえ。……約束は約束だからだ」

江田先生は微笑んで、看護婦に告げた。

「カルテをチエックしてくれ。……一か月前に二度来院して、それ以後来ない患者さんだ」「はい、すぐに調べます」

看護婦たちは、受付の棚へ飛んでいった。

「誰かが分かつたら、わたしから先方に電話してあげますよ。……せつかくの山崎さんの好意なんだから、クワガタをいただきに来なさいってね」

山崎さんは難しい表情を和らげて、大きな机の上を歩き回るクワガタムシを、江田先生と一緒に楽しそうに眺めた。「先生、ちょっとといらしてみてください」

看護婦の一人が、カルテを手にして呼んだ。さりげない声だが、緊張しているのが分かつた。

「どうした。……あつたのかね」

江田先生は、大きな体を肘かけ椅子から重たそうに持ち上げて、ゆつたりと受付へ向かった。
「その男の子、例の子じゃないでしようか？」

しばらく、密やかに話し合う声がつづいてから、江田先生が椅子に戻ってきた。

「分かりましたよ。……私の知人の息子でした。その後、私が紹介した大学病院に通院することになりましたね」「ああ。……それじゃ会えねえのが当たり前だ。それで、どこが悪いんで？」

「ええまあ、心臓の病気です。……いずれ手術すれば、すぐに元気になるでしょう」

「それならよかつた。……ところで、このクワガタを渡すことはできるかね？」

江田先生は、しばらく考えてから、うなずいた。

「渡せますとも。……私が、今夜にでも届けてきてあげましょ」

「そうかね、お願ひできるかね？」

「なに、クルマで行けばすぐのところだから。あの子も、きっと大喜びしますよ。山崎さんのことを、ちゃんと伝えておきますからね」

山崎さんは、嬉しそうにうなずいた。クワガタムシを江田先生に預け、何度も頭を下げて帰つていった。いつもの山崎さんのむつり顔は消えて、いかにも満足そうな清々しい表情をしていた。

その後ろ姿が待合室から見えなくなるのを待ちかまえたように、二人の看護婦が同時にいった。

「先生。だつて、あの子はもう……」

「うう。もう一週間も前に、大学病院で、手術のかいもなく亡くなつてしまつた」

「それなのに、どうして山崎さんと⑦あんな約束をなさつたんですか？」

江田先生は、大きな体を肘かけ椅子に沈めた。

「あの子の代わりに約束を果たすためだよ。山崎さんが楽しみにしていた約束をね」

「そういいながら、遠くを見る目をした。

「あの子が瞳を輝かせ、青白い顔を上気させて大喜びする顔が、山崎さんの楽しみだったんだ。……さつきの山崎さんの様子を見れば、⑧その約束は充分に果たせたと思うがね」

問一 線部 a 「噛んで含める」、b 「偏屈な」の意味として最も適当なものを次の中からそれぞれ選び、記号で答えなさい。

- a 「噛んで含める」
- ア 丁寧に説明する様子
イ そつけなく言う様子
ウ 悔しいのを我慢する様子
エ 一生懸命取り組む様子
- b 「偏屈な」
- ア 意地悪で思いやりがない
イ 物静かで無口な
ウ 口やかましく怒りっぽい
エ かたくなで素直でない

問二 線部①「白衣の先生はどうしりと肘かけ椅子におさまっている」から読み取れる江田先生の様子について最も適当なもの次のなかから選び、記号で答えなさい。

- ア 誠実な姿勢でじっくりと診察する様子を示している。
イ 仕事へのやる気に満ちあふれる様子を示している。
ウ とても太っていて動きにくい様子を示している。
エ 医者らしく偉そうに振る舞つていてる様子を示している。
オ 診断に自信がないのを「まかそようとすると様子を示している。

問三　——線部②「このままじや、ほかの患者さんの手前もありますし……」とあります。看護婦が心配している内容として最も適当なものを次のの中から選び、記号で答えなさい。

(2) そう看護婦たちが確信したのはなぜですか。三十字以内で説明しなさい。

ア 診察も受けない山崎さんが待合室にいることで、ベンチに座れない患者さんがでてしまうこと。

イ 診察も受けない山崎さんが待合室にいることで、自分の順番が遅くなると思う患者さんがでてしまうこと。

ウ 診察も受けない山崎さんが待合室にいることで、薄気味悪く思ってしまう患者さんがでてしまうこと。

エ 診察を受けるために待っている患者さんが待合室にいることで、山崎さんがよく眠れないこと。

オ 診察を受けるために待っている患者さんが待合室にいることで、山崎さんの機嫌が悪くなるということ。

問四　——線部③「先生の推理どおりみたいです」について

(1) 「先生の推理」とはどのようなものですか。「うではないかという推理」に続くように本文中から二十五字以内でぬき出し、最初と最後の五字を答えなさい。

問五 線部④「山崎さんが、不安そうな表情で診察室に入ってきた」とあります。その理由として最も適当なものを次の

中から選び、記号で答えなさい。

- ア 看護婦に他の人の様子をうかがっていることを見抜かれ、恥ずかしく思つたから。
イ 診察を受けるわけでもないのに待合室にいることについて注意されると思つたから。
ウ 每日冷房がきいた待合室で涼しい思いをしていることを責められると思つたから。
エ 江田先生に診察代を払えないと誤解させてしまったのではないかと思つたから。
オ 右肩に塗るべき薬をちゃんと塗つていなことを怒られると怒つたから。

問六 線部⑤「重い口で少しづつ話した」とありますが、山崎さんの話はどこまで続いていますか。その最後の五字をぬき出しなさい。ただし、句読点も一字分と数えること。

問七 線部⑥「母親の目が涙でうるんでいる」とあります。その理由として最も適当だと考えられるものを次の中から選び、記号で答えなさい。

ア 江田先生にじっくりと診察をしてもらい、とても感謝をしていましたから。

イ 見たことのない老人と楽しそうに話すという行動から子供の成長を感じたから。
ウ 子供が長く患っていた病気が手術で完治すると聞き、希望を持ったから。

エ 知らない老人が自分の子供に危害を加えるのではと心配になつたから。
オ 診察の結果が思わしいものではなく、不安でいっぱいになつていたから。

問八 線部⑦「あんな約束」とは、どのような「約束」ですか。説明しなさい。

問九 線部⑧「その約束は充分に果たせたと思うがね」とありますが、江田先生がそのように判断した理由を、「～から」につながるように本文中から四十字以内でぬき出し、最初と最後の五字を答えなさい。

問十 この文章の表現に関する説明として最も適当なものを次のなかから選び、記号で答えなさい。

- ア 会話中に「……」を多くはさみこむことで、その場の気まずい雰囲気が効果的に伝わるように工夫されている。
- イ 比喩や体言止めなどの表現技法を多用することで、物語全体が詩的に感じられるように工夫されている。
- ウ 山崎さんの視点を通してできことが語られることで、読者が感情移入しやすいように工夫されている。
- エ 過去の出来事も会話を交えて描くことで、現在と過去とが入り交じった非日常性が伝わるように工夫されている。
- オ 連続する会話において登場人物の口調に特徴を持たせることで、人柄の違いが際立つように工夫されている。

国語

受験番号

【一】

| |
|--|
| |
|--|

| | | | |
|----|---|---|---|
| 問一 | ① | ⑤ | ① |
| | ⑩ | ⑥ | ② |

| | | | |
|----|---|---|---|
| 問一 | ⑨ | ⑤ | ① |
| | ⑦ | ⑥ | ③ |

| | | | |
|----|---|---|---|
| 問一 | ① | ② | ① |
| | ④ | ④ | ⑤ |

| | | | |
|----|---|---|---|
| 問一 | ① | ② | ① |
| | ④ | ④ | ⑤ |

| | | | |
|----|---|---|---|
| 問一 | ① | ② | ① |
| | ⑤ | ⑥ | ⑦ |

| | | | |
|----|---|---|---|
| 問一 | ① | ② | ① |
| | ⑥ | ⑦ | ⑧ |

| | | | |
|----|---|---|----|
| 問一 | a | b | |
| | | | （） |

| | | | |
|----|-----|-----|----|
| 問一 | （1） | （2） | |
| | | | （） |

| | | | |
|----|-----|-----|----|
| 問一 | （1） | （2） | |
| | | | （） |

| | | | |
|----|-----|--|----|
| 問一 | （2） | | |
| | | | （） |

| | | | |
|----|--|--|----|
| 問一 | | | |
| | | | （） |

| | | | |
|----|--|--|----|
| 問一 | | | |
| | | | （） |

から。

問十

で自分勝手と言える。

ではないかといふ推理。

| | | | |
|----|-----|-----|----|
| 問一 | （1） | （2） | |
| | | | （） |

| | | | |
|----|---|---|----|
| 問一 | A | B | C |
| | | | （） |

| | | | |
|----|-----|-----|----|
| 問一 | （1） | （2） | |
| | | | （） |

なイメージ。

【一】(27点)

| | | | |
|----|------------------|------------|------------------|
| 問一 | ⑤ 勤 | ① そな れる | ① そな れる |
| 問二 | ① ウ | ② エ | ① ウ |
| 問三 | ① エ | ② ウ | ① オ |
| 問四 | 共 生 関 係 | (3点) | 学 校 教 育 |
| 問五 | ア ウ | ≈4≈ | ウ |
| 問六 | （読み各1点・書き各2点） | （各2点） | （各2点） |
| 問七 | （読み各1点・書き各2点） | （各1点） | （各1点） |
| 問八 | （読み各1点・書き各2点） | （各1点） | （各1点） |
| 問九 | （読み各1点・書き各2点） | （各1点） | （各1点） |
| 問十 | （読み各1点・書き各2点） | （各1点） | （各1点） |

| | | | | | | | | | | | | | | |
|----|------|-------|----|------|-------|----|------|-------|----|------------------|-------|----|--------|-------|
| 問一 | ウ | （2点） | 問二 | ① エ | （34点） | 問三 | ① ウ | （2点） | 問四 | 共 生 関 係 | （3点） | 問五 | ア ウ | （4点） |
| 問二 | ① ウ | （2点） | 問三 | ① エ | （2点） | 問四 | ウ | （2点） | 問五 | オ | （3点） | 問六 | ウ | （5点） |
| 問三 | ① エ | （2点） | 問六 | ウ | （5点） | 問七 | （2点） | （各2点） | 問八 | ウ | （4点） | 問九 | （2点） | （各2点） |
| 問四 | ウ | （2点） | 問八 | ウ | （4点） | 問十 | （2点） | （各2点） | 問五 | ア ウ | （4点） | 問六 | ウ | （5点） |
| 問五 | オ | （3点） | 問九 | （2点） | （各2点） | 問七 | （2点） | （各2点） | 問一 | ウ | （2点） | 問八 | ウ | （4点） |
| 問六 | エ | （3点） | 問十 | （2点） | （各2点） | 問二 | （2点） | （各2点） | 問三 | エ | （2点） | 問四 | ウ | （5点） |
| 問七 | （2点） | （各2点） | 問一 | （2点） | （各2点） | 問五 | （2点） | （各2点） | 問六 | （2点） | （各2点） | 問七 | （2点） | （各2点） |
| 問八 | （2点） | （各2点） | 問二 | （2点） | （各2点） | 問三 | （2点） | （各2点） | 問四 | （2点） | （各2点） | 問五 | （2点） | （各2点） |
| 問九 | （2点） | （各2点） | 問三 | （2点） | （各2点） | 問六 | （2点） | （各2点） | 問七 | （2点） | （各2点） | 問八 | （2点） | （各2点） |
| 問十 | （2点） | （各2点） | 問四 | （2点） | （各2点） | 問五 | （2点） | （各2点） | 問六 | （2点） | （各2点） | 問七 | （2点） | （各2点） |

| | | | | | |
|----|--------|-------|----|--|-------|
| 問一 | a ア | （39点） | 問八 | や ア ミ く の に 知 考 え る こ と | （4点） |
| 問二 | （各2点） | （各2点） | 問九 | （2点） | （各2点） |
| 問三 | （2点） | （各2点） | 問十 | （2点） | （各2点） |
| 問四 | （2点） | （各2点） | 問一 | （2点） | （各2点） |
| 問五 | （2点） | （各2点） | 問二 | （2点） | （各2点） |
| 問六 | （2点） | （各2点） | 問三 | （2点） | （各2点） |
| 問七 | （2点） | （各2点） | 問四 | （2点） | （各2点） |
| 問八 | （2点） | （各2点） | 問五 | （2点） | （各2点） |
| 問九 | （2点） | （各2点） | 問六 | （2点） | （各2点） |
| 問十 | （2点） | （各2点） | 問七 | （2点） | （各2点） |

で自分勝手と言える。

| | | | | | |
|----|--------|-------|----|--|-------|
| 問一 | a ア | （39点） | 問八 | や ア ミ く の に 知 考 え る こ と | （4点） |
| 問二 | （各2点） | （各2点） | 問九 | （2点） | （各2点） |
| 問三 | （2点） | （各2点） | 問十 | （2点） | （各2点） |
| 問四 | （2点） | （各2点） | 問一 | （2点） | （各2点） |
| 問五 | （2点） | （各2点） | 問二 | （2点） | （各2点） |
| 問六 | （2点） | （各2点） | 問三 | （2点） | （各2点） |
| 問七 | （2点） | （各2点） | 問四 | （2点） | （各2点） |
| 問八 | （2点） | （各2点） | 問五 | （2点） | （各2点） |
| 問九 | （2点） | （各2点） | 問六 | （2点） | （各2点） |
| 問十 | （2点） | （各2点） | 問七 | （2点） | （各2点） |

ではないかという推理。(3点)

| | | | | | |
|----|------|-------|----|---------------------------------|-------|
| 問一 | イ | （3点） | 問八 | 山 崎 さ ん の 目 が | （4点） |
| 問二 | （2点） | （各2点） | 問九 | （2点） | （各2点） |
| 問三 | （2点） | （各2点） | 問十 | （2点） | （各2点） |
| 問四 | （2点） | （各2点） | 問一 | （2点） | （各2点） |
| 問五 | （2点） | （各2点） | 問二 | （2点） | （各2点） |
| 問六 | （2点） | （各2点） | 問三 | （2点） | （各2点） |
| 問七 | （2点） | （各2点） | 問四 | （2点） | （各2点） |
| 問八 | （2点） | （各2点） | 問五 | （2点） | （各2点） |
| 問九 | （2点） | （各2点） | 問六 | （2点） | （各2点） |
| 問十 | （2点） | （各2点） | 問七 | （2点） | （各2点） |

山崎さんがつかまえてきたクワガタを、今夜にでも男の子に渡すという約束。

| | | |
|----|------|-------|
| 問一 | オ | （3点） |
| 問二 | （2点） | （各2点） |
| 問三 | （2点） | （各2点） |
| 問四 | （2点） | （各2点） |
| 問五 | （2点） | （各2点） |
| 問六 | （2点） | （各2点） |
| 問七 | （2点） | （各2点） |
| 問八 | （2点） | （各2点） |
| 問九 | （2点） | （各2点） |
| 問十 | （2点） | （各2点） |

(5点)

平成二十六年度

和歌山信愛中学校

入学試験 中期日程

国語

受験上の注意

- 一 問題用紙は1～20ページまでです。
開始のチャイムが鳴つたら確認して始めなさい。
- 二 受験番号は、問題用紙と解答用紙の両方に書きなさい。
- 三 終了のチャイムが鳴つたら、問題用紙の上に解答用紙を開いたまま裏返しておきなさい。

（解答は、句読点や記号も一字分と数えて記入すること。）

受験番号

【二】次の問い合わせに答えなさい。

問一 線部①～④の漢字の読みをひらがなで答えなさい。また 線部⑤～⑧のひらがなを漢字に直しなさい。

① 臨場感のある映像。

② 返事を保留する。

③ 山の頂に立つ。

④ 手本を模写する。

⑤ バスのうんちんが上がる。

⑥ ちようへん小説を読む。

⑦ 先生の作品をはいけんする。

⑧ ゴミをひろう。

問一 次の①～③のひらがなを漢字に直しなさい。また、その意味を後のア～エの中からそれぞれ選び、記号で答えなさい。

- ① バンパ|どうだん ② セイニ|こううじく ③ むがむちゅう

ア 種類や違ちがいがさまざまであること。
イ あるもののことに熱中すること。
ウ もつてのほかであること。
エ 思いのままに暮らすこと。

問三 次の文が正しい表現になるように――線部を言い換えなさい。

- ① 両親の願いは、私が中学校に合格することを願つていてる。
② 森には、大洪水こうを防ぐ役割である。
③ 妹は、テニスのルールを友人から教えてあげた。

【二】次の文章を読んで、後の問い合わせに答えなさい。

①現代技術を特徴づけるのは豊富な工業製品の氾濫^{はんらん}であろう。少なくとも先進工業国においては、高い生産性に裏づけられた安価で高品質の工業製品を容易に入手することができる。このことが豊かさの象徴である。そして途上国においても、そのような豊かさが目標として設定されている。この豊かさは、人間にとつて有用ではない自然資源を加工して有用なものに変化させるという技術によつて支えられている。

ところが、このような技術の持つ問題が、最近しばしば話題になる。豊富な工業製品をつくり出すための条件としての資源エネルギーについては、その限界が指摘^{てき}されてすでに久しい。しかも使用し終わつた製品の廃棄^{はいき}については、安全問題などを引き起こしながら廃棄場所の重大な不足を招いている。そしてもっと本質的なこととして、資源や廃棄という、いわば工業製品の条件のみならず、製品そのものの使用の場面においてさえも限界を迎^{むか}えているといふことである。道路の容量に対する過剰^{じょう}な自動車とか、家の中に入り切らない家庭用機器などの問題、しかも道路の新設は少なくとも都会においてはもはや不可能であり、家の広大化は地価の高騰^{とう}によつてのぞむべくもない。

とすれば、自然資源を有用な人工物に変換^{かん}することによつて豊かさを達成するといふ、あたかも自明と考えてきた問題は、多くの矛盾^{むじゅん}をはらむようになつてきたと言わざるを得ない。これらは、人工化した環境^{かん}に人工物をつめこむことの限界であり、資源・エネルギーの限界であり、廃棄物^{はいき}処理能力の限界である。そしてこの限界は、局所的現象にとどまらずに、オゾン層破壊^{かい}に見られるように地球規模にまで拡大している。

依然として工業製品の大量供給^{こうき}という図式に頼りながら、一方で私たちは②別の視点^{しどん}を生み出しつつある。それは、工業製品を使用するのは、それが持つ機能を※享受^{きょう}することが本当の目的であり、製品を所有することはそのための単なる手段にしかすぎないという視点である。

考えてみれば、豊富な製品を所有しそれに囲まれて暮らすというのは、それ 자체は目的ではなく、それらの豊富な機能を享受するのが目的であるのは当たり前のことであり、その所有とは、本来の機能享受の目的達成を可能にする一手段に過ぎない。とすれば、技術による豊かな社会の実現という視点においては、このような製品所有は必然的なものではない。むしろ機能の売買がより本質的である。

我々が日常生活において、製品を買って所有するかレンタルで機能を買うかの選択は何気なく行うことが多いであろう。しかしこのことは一見その場面場面では偶発的なことのようでありながら、結局は現代技術が持つ問題に本質的に影響を与えていく重要な視点である。

我々の周辺にある多くの工業製品は、その寿命が数年程度というものが圧倒的に多い。乗用車、家電製品などがその代表で、一〇年以上使っていると珍しい目で見られたりする。しかもこれらの製品は、頻繁にモデルチェンジを行って、性能あるいはファッショニの観点から古いものを※陳腐化してしまい、結果的に③寿命は機能的寿命の半分以下になってしまふ。

工業製品の寿命が短いことは日常的なことなので、あまり疑いを持たずに受け入れているが、よく考えてみると④不思議なことである。古代エジプトのピラミッドは、形状や素材、そして構造において、いかに長寿命にするかという点に最大の注意を払つてつくられ、現に五〇〇〇年の寿命を保つていてるわけである。中世の教会建築も同じで、一〇〇〇年以上の寿命がある。機械ですら、産業革命の産物としての蒸気機関車は数十年の寿命があつたのである。このように人間は長い間不变ということに憧れていたのだ。ところが我々の自動車は五年であり、ファッショニを気にすればせいぜい二年である。人類の歴史の中で、初期の工業製品としてのピラミッドから現代の自動車まで、数千年の間で、製品寿命を数千分の一に短縮してしまつたというのは驚くべきことである。

永遠性の夢を捨ててまで人類がほしかったものは、現代技術を特徴づける機能性ということであろう。現代の技術的製品は、さまざまの機能を持つており、それが前述のように人々の生活を豊かにするのであって、これらは総称して利便性と呼べるであろう。多様な利便性を提供するためには、製品の短寿命は有効というより必要不可欠だったのかもしれない。現在見られる多くの製品におけるモデルチェンジによる製品※代謝は、少なくとも名目上利便性の向上をうたつており、したがつて、もしこちらの製品を五〇〇〇年も使われたら、向上は五〇〇〇年間期待できなくなってしまう。とすれば、⑤短寿命は現代技術の本質的な特徴である。

しかしながら、この点についても本質的な疑問が提起されつつあると言つてよいであろう。それは前述した地球環境の限界の問題と無関係ではない。A それらと共に起つてくる問題である。B、短寿命は結局⑥短いサイクルで次々とつくり、次々と捨てるにほかならず、資源やエネルギーそして廃棄問題に大きな影響をもたらすものだからである。

C 短寿命化の持つ本質的な問題が、人工環境の不安定化としてあらわれてくる。短寿命というのは、前述のような製品代謝の高速化の結果として生じてきたものであるが、技術的にはなるべく少ない素材で最大能力を發揮する極限設計の方法を生み出した。同時に最少資源で高信頼性を得る方法なども樹立された。D、結論的に言えば、そもそも現代技術の中心である無機物による人工的製品は、生物を中心とする自然環境に比べて⑦本質的に不安定である。例えば我々に豊富な食糧を提供してくれる海や山は、人間による濫獲^{らんかく}さえなければ何万年も寿命があると考へてよいであろう。

この人工物にまつわる本質的不安定さと、それを加速した短寿命化とは、社会に大きなメンテナンス負担をもたらすことになる。都市における建造物、さまざまな道路、交通機関や工場、そして個人生活の行われる家とその家具にいたるまで、使用すれば、あるいは放置したままですべて劣化し、劣化からの回復が自然に、あるいは自発的に行われることはけつしてない。補修、修理、検査、交換などのメンテナンス作業は、その量的増大とともにますます速まる劣化速度の故^{ゆえ}に、人々にとつてますます大きな負担となつていく。

(吉川 弘之『テクノロジーの行方』より)

注 ※ 享受：受け入れて味わい楽しむこと。

※ 陳腐：古くさいこと。ありふれて平凡なこと。

※ 代謝：古いものが新しいものに入れかわること。

問一 線部①「現代技術」とありますか。本文中から四十字以内でぬき出し、最初と最後の五字を答えなさい。

問二 線部②「別の視点」とありますが、その視点により変化してきた生活の説明として最も適当なものを、次の中から選び、記号で答えなさい。

- ア 新品の服を買うよりも、なるべく古着屋を利用するようにしている。
- イ 自家用車を持たず、目的に応じて必要な時に借りるようになっている。
- ウ ゴミの分別をして、資源ゴミはリサイクルできるように心がけている。
- エ スーパーに行つてもレジ袋^{ぶくろ}をもらわず、エコバッグを使うようにしている。
- オ 暑い夏でも、クーラーより電力消費量の少ない扇風機^{せんぷうき}を使うようにしている。

問二 線部③「寿命は機能的寿命の半分以下になつてしまふ」とありますが、その理由として最も適當なものを次の
中から選び、記号で答えなさい。

ア 旧型製品を修理して使い続けるより、新型製品に買い換える方が、かえつて安くつくと考えるから。

イ 次々と新しい性能を備えた新製品が出ると、今まで使つていた旧製品は役に立たなくなつてしまうから。

ウ あらゆる面で性能に優れた新しい製品に比べると、実際旧型製品は新製品の半分以下の寿命しかないから。

エ あまりにも次々とファンクション性に優れた新製品が出るため、買うよりもレンタルしようと考へてしまふから。

オ 新製品が出ると、旧型製品はまだ充分使えるにもかかわらず、魅力を失い、使われなくなつてしまふから。

問四 線部④「不思議なこと」とありますが、なぜ「不思議」だと言つているのですか。本文中の言葉を使って、四
十字以内で説明しなさい。

問五 線部⑤「短寿命」とありますが、「短寿命」化するのは何のためですか。本文中から十五字以内でぬき出して
答えなさい。

問六 □ A □ S □ D に当てはまる言葉として最も適当なものを次のの中から選び、それぞれ記号で答えなさい。ただし、同じ記号を二度使うことはできません。

ア しかも イ ところで ウ むしろ エ なぜなら オ しかし

問七 —— 線部⑥「短いサイクルで次々とつくり、次々と捨てる」とあります。これとほぼ同じ内容を示している表現を、同じ段落の中から十字以内でぬき出しなさい。

問八 —— 線部⑦「本質的に不安定である」とは、どういうことですか。最も適当なものを次のの中から選び、記号で答えなさい。

- ア 濫獲らんがくされる心配はないが、作りすぎてしまうおそれがあるということ。
イ 今後も安定的に一定量を生産し続けることは非常に困難だということ。
ウ 自然物よりも寿命が短く、自分自身で回復する能力を持たないということ。
エ 自然環境とは違ちがつて、我々に多くの利益をもたらしてはくれないとということ。
オ 人間によって破壊された自然環境に比べ、人工物は簡単に修復ができるということ。

問九 筆者の主張として最も適当なものを次のなかから選び、記号で答えなさい。

- ア なるべく少ない素材で最大能力を發揮する極限設計の方法は、自然環境の保全につながる。
- イ 我々に豊富な食糧を提供してくれる自然の寿命を縮めないために、濫獲はするべきではない。
- ウ 最少資源で高性能を得る方法によって、資源問題や廃棄問題を解決することができるようになる。
- エ メンテナンス作業に多くの時間と費用がかかつてしまう人工的製品は、これ以上つくるべきではない。
- オ 永続性の夢を捨ててまで人類が求めた人工物の短寿命化は、社会に大きな負担をもたらすことになる。

【三】次の文章を読んで、後の問い合わせに答えなさい。

ぼくは、リレーに出場することになった。それも、市内の小学校の陸上クラブの対抗戦。 4×100 リレーの六年生の部。これって、すごくない？ 君には、どうつてことないのかなあ。ぼくにとつては、①たいした事件なんだけど。だって、ぼくは、もともと、そんなに脚^{あし}が速いほうではなかつた。遅いとまでは言わない。でも、まあ、ふつうだろう。

それなのにリレーのメンバーに選ばれた理由は、実に簡単。ぼくの小学校では、陸上クラブは人気がない。最初から部員が少ない。サッカーなんかとくらべると、なんか地味な感じでしょ。そのうえ、練習がわりと単純でかかる。だから、途中で何人もやめた。夏の大会の時点で、男子の六年生部員は、ぼくをふくめ、なんと四人になつていた。つまり、 4×100 リレーに出る四人。放課後、特別にリレーの練習が始まつた。それまでも、走るのは走っていたから、バトン・バスが中心。

先生が、説明してくれた。

バトンを渡すうえで大切なのは、受けとるランナーが十分に加速しておくこと。決められた幅^{はば}のリレー・ゾーンの中で。それで、渡す役のランナーともらう役のランナーが同じスピードになつたところで、バトン・バス。

短距離^{きよ}はスタートの部分で時間がかかる。受けとるランナーが前もつて加速できる 4×100 リレーの記録は、四人の百メートルのタイムの合計よりずっと速くなる。

② そうなんだと思う。理屈^{りくつ}ではね。

ぼくは第三走者だった。第二走者の竹田が走つてくる。タイミングをはかって、ぼくが走り出す。すると、すぐにふたりの間がつまり、竹田に押し倒^{おお}されそうになる。

「おまえなあ、のろのろすんなよ」

竹田は、いらっしゃっている。

今日は早めにスタートしてみる。そうすると、ぼくは、竹田の足音を聞きながら、ゾーンの線をオーバーしてしまう。振り向くと、竹田は膝に手をあて下を向いていた。

③ 竹田は何も言わない。顔をあげようともしなかつたけど、バトンの先がぶるぶるしてるのがわかつた。

福岡と合わせるのは、ずっとやさしかつた。ぼくが、ハイツ、と言つてバトンを差し出す。すると、そのときには、後ろに目があるかのように、福岡の手がしつかりと伸びている。それは、福岡がうまかつたのだ。福岡は、アンカーには慣れていた。ぼくとは違つて、ずっと、運動会のスターだったのだから。

走ることだけではなく、ぼくはすべてが「ふつう」なんだと思う。なにをやつても福岡みたいにスターになれない。勉強でも、運動でも。そういう子にとつては、④ 小学校生活は、そんなに愉快じゃない。

そう。だから、ぼくは消しゴムを持っていた。ぼくのための特製の消しゴム。何かいやなことがあると、ぼくは、いそいでその消しゴムをかける。

国語の授業なんて、いい例だ。窓の外をながめていると、教科書に何を書いてあるのか、ぼくには、わからなくなってしまう。わからなくなつていると、よく先生に当たられる。雲が流れるのを見ていたんだから、適当な答えを言うしかない。みんなに笑われる。
⑤ ぼくは、ぼくの消しゴムをひとこすりした。

すると、国語の教科書も、先生も、消える。ひとり、ぼくんと立たされているぼくの前から、黒板が消え、クラスの子たちが消え、教室が消えていく。

女子チームもリレーに出場する。毎日の練習の終わりには、男女で、実際に四人通してレースをやつた。もちろん、女子に負

けるわけにはいかない。

で、勝敗は、明らかに三走のぼくにかかつっていた。

竹田までは、ぼくたち男子チームがリードしている。ぼくの番になつて、途中で抜かれる。抜かれるけど離されないようにがんばる。すると、福岡が女子を抜きかえす。それがパターン。

あまり、楽しいパターンではない。

リレーの練習をしてると、変なことが起つてきた。

女子でいちばん速いのは、第一走者の児島さんこじまだった。うちの学校の六年生の男を全部集めても、児島さんに勝てるやつは、そんなにいないと思う。女の子たちの間では、コジーって呼ばれてる、児島さん。

変なのは、その児島さんではなくてぼくのほうで、ぼくは、いつのまにか児島さんを見ている自分に、気がつくようになった。

児島さんが、スターディング・ブロックをセットする。足の幅をていねいに調整している。

「位置について」の合図。ラインの手前に両手をつく児島さん。「用意」で、児島さんが腰こしを上げる。クラウチング・スタートの姿勢は、猫ねこみたい。児島さんの真剣な顔つき。額に汗あせが光っているのがわかる。

⑥ぼくは、なんだか恥ずかしくなつて、むりやり目をそらす。

竹田とぼくのバトン・パスは、だんだんまともになつてきた。何回かに一回は、呼吸がみごとに合う。そうすると竹田は喜んで、バトンでぼくの頭をパカパカたたいた。

そんなふうにして放課後の陸上クラブの練習が終わると、ぼくは竹田ではなく福岡と一緒に帰つていた。第二走者より第四走者のほうがやさしいっていうせいではない。もともと、家が近いから。それが、いつのまにか、そこに児島さんが加わるようになった。たしかに児島さんも、方向が同じといえれば同じだった。

福岡と児島さんが、話をしていた。ぼくは、ふたりがしやべるのを聞いていた。

⑦国語の時間みたいになつてしまふ。

国語の時間みたいに、雲を見ていたわけではなかつたのだけれど。

いよいよ大会になつた。

予選のレース。ここで二位までにはいっておかないと、決勝に進めない。先生の予想では、なんとかいけそそうだつていうんだけど。ぼくは三走だから、バック・スタンドの前でバトンを受ける。はるかかなた、トラックの対角線上でレースが始まる。第一走者たちの腰がきれいにそろつて上がつた。ピストル。一発でスタート。いちばん後ろで大きくおくれてる選手はいるけれど、前のほうはあまり差がひらかない。

一走から二走へ。竹田がバックの直線を来る。たぶん二位。ぼくは、腰を落とし、タイミングをはかる。よし。一、二、三。前を向いたまま、ぼくは後ろに手を伸ばす。ぼくの手に、バトンがたたきつけられる。痛いくらいだ。

呼吸は合つた。

ぼくは、走る。いつもは長く感じられる百メートルは、あつという間だ。

⑧ぼくのレーンの先では福岡がぼくに向かつて大きく腕を回していた。三位。いや、四位になつてゐるのかも。

第四コーナーの外には、応援えんの生徒たちがいた。何か叫さけんだり、手をたたいたりしている、小学生のかたまり。

ぼくの目に児島さんの姿が飛びこんできた。そのとき、⑨突然とつ、なんだか黒いものがわいてきた。黒くて重い何かが、ぼくの心の中に広がつていく。

ぼくは、思い出てしまつた。さつき、スタンドで、福岡がコジーと言つていたことを。コジー、と児島さんに話しかける福

岡。それに対して、笑つて答える児島さん。福岡が児島さんをそう呼ぶのを、ぼくは、初めて聞いた。

内側のレーンのやつが出てきたのに、ぼくは気づく。並ばれてしまう。あと少しでバトン・パスなのに。ぼくのせいで、リレーは予選落ちになってしまいそう。

消しゴム。ぼくの、あの消しゴム。ぼくが消しゴムをかければ、消えていく。^{となり}隣のレーンのやつも、応援の生徒たちも。消しゴムにこすられて、児島さんが消え、陸上競技場が消える。

福岡が、叫ぶのが聞こえた。ファイト、と言ったのだ。ぼくは、けんめいにスパートする。ぼくのからだが、ぼくを走らせる。リレー・ゾーンにはいる。福岡が走り出す。でも、いつものタイミングより、少し早い。福岡の背中が、遠くに感じられる。福岡は、スピードをゆるめようとしない。バトンをバスできないまま、振り切られてしまいそうだ。リレー・ゾーンの線が目にはいる。チャンスは、いましかない。ハイツ、と叫んで、ぼくは思いつ切り飛びこんだ。福岡が後ろに手を伸ばした。からだをひねり、右手をまっすぐに伸ばす。バトンを、福岡の手をめがけ、倒れこむようにして突き出す。

なんとか、届きますように。

ぼくは、勢いあまって、ころんでしまった。顔をあげると、ゾーンが終わるラインのぎりぎりのところだった。
ぼくは、トラックにはいつくばつたまま、ゴールに向かうアンカーたちの背中を見ていた。

「ごめん、失敗した。スタートが早すぎた。きっと、あせつてたんだと思う」

ゴールにみんなが集まつたとき、福岡は真剣にあやまつた。

ぼくの膝はすりむけて血が出ていた。肘もひりひりする。

福岡は速かった。二着。

決勝進出だ。

「よく落とさなかつたわね。先っぽしか、つかめなかつたでしょ。やつぱり、福岡君、うまい。結果としては、最高のバトン・バスよ」

児島さんが、興奮している。

傷の手当てをするようについて、役員のひとに言われた。トラックのわきのテントを教えてもらつた。

歩きながら、ぼくは考えた。

⑩あのとき、ぼくが消したかつたのは、児島さんでも陸上競技場でもない。いつも福岡と児島さんの隣でだまつている、ちっぽけな自分の姿だつたのだろうと。

（川島 誠『バトン・バス』より）

問一 線部①「たいした事件」とあります、なぜ「たいした事件」なのですか。本文中の言葉を使って説明しなさい。

問二 線部②「そうなんだと思う。理屈ではね」とありますが、「そうなんだと思う」の後に「理屈ではね」と付け加える「ぼく」の心情の説明として最も適当なものを次の中から選び、記号で答えなさい。

ア すべてを理屈で説明しようとすると先生のことが気に入らないと思っている。

イ 理屈で考えたことがすべてのことに当てはまるわけではないと思つてている。

ウ 理屈で考えると自分の脚が遅すぎるから迷惑をかけているのではと心配している。

エ リレーではバトン・パスの練習が最も効果的だという理屈に疑問を抱いている。

オ 理屈のとおりやつても自分の脚が速くならないことを自分のせいだと思つてている。

問三 線部③「竹田は何も言わない。顔をあげようともしなかつたけど、バトンの先がぶるぶるしてるのがわかった」とあります、この時の「竹田」の気持ちの説明として最も適当なものを次の中から選び、記号で答えなさい。

ア うまくいかないバトン・パスの練習に意味を見いだせず、もうやめてしまおうと思つてている。

イ ぼくとのバトン・パスが何度もやつてみても思いどおりにいかないことに腹をたててている。

ウ 絶対にリレーに勝たなければならぬという思いから、今の練習では足りないと思つてている。

エ ぼくとバトン・バスの練習をしてもうまくいかないので、半ばあきらめている。

オ 本当はリレーになんて出たくないのに無理やりに練習させられることに反発を覚えている。

問四 線部④「小学校生活は、そんなに愉快じやない」とありますが、なぜ「ぼく」にとって、「そんなに愉快じやない」

のですか。本文中の言葉を使って説明しなさい。

問五 線部⑤「ぼくは、ぼくの消しゴムをひとこすりした」とありますが、この時の「ぼく」の説明として最も適当なもの

を次の中から選び、記号で答えなさい。

ア 授業中に突然先生に当たられたので、動搖をかくすため、消しゴムで消す動作をしている。

イ 消しゴムで消すように自分を周囲から消し去ることで、自分の存在をかくし、自分を守っている。

ウ 自分の周囲の存在を消し去ることで、自分がいやな思いをしたことを忘れ去ろうとしている。

エ 自分の気分をすぐに変えられる消しゴムを持つていて、周囲より自分が優れないと感じている。

オ 自分の本当の気持ちをわかつてくれない周囲の人々に怒りを感じて、周囲を消し去っている。

問六 線部⑥「ぼくは、なんだか恥ずかしくなつて、むりやり目をそらす」とありますが、その理由を説明したものとして

最も適當なものを次の中から選び、記号で答えなさい。

ア 女子のくせに走るのが速い児島さんを生意気に思つて、そんなことを思つてはいけないと思ったから。

イ 女子でいちばん走るのが速い児島さんを尊敬している自分に気づいたが、女子に負けるわけにはいかないと思つたから。

ウ 児島さんと比べて自分の脚があまりにも遅いことに気づき、とても情けない気持ちになつて悲しくなつてきたから。

エ 児島さんの動作を見ていて児島さんに心がひかれていることに気づいたが、そんな感情をふりはらおうとしたから。

オ 猫のようになつてゐる児島さんのかつこうを見て笑いそうになつたが、真剣な児島さんを笑つては失礼だと思つたから。

問七 線部⑦「国語の時間みたいになつてしまふ」とあります、ここでの「ぼく」の状態の説明として最も適當なものを

次の中から選び、記号で答えなさい。

ア 福岡と児島さんがしやべつてゐることが理解できず、混乱した気分になつてゐる。

イ 福岡と児島さんがしやべつてゐることに反感を抱き、適當な返事をしてやろうと思つてゐる。

ウ 福岡と児島さんがしやべるのを聞きながら、ぼんやりと取り残されたような気持ちになつてゐる。

エ 福岡と児島さんがしやべつてゐることを聞いてうれしくなり、自分も仲間に入れてほしいと思つてゐる。

オ 福岡と児島さんがしやべるのを聞いてゐると、退屈でたまらなくなり、うんざりしてゐる。

問八 線部⑧「ぼくのレーンの先では福岡がぼくに向かって大きく腕を回していた。三位。いや、四位になつてゐるのか

も」とあります、この時の「ぼく」の気持ちの説明として最も適当なものを次の中から選び、記号で答えなさい。

- ア がんばって速く走ることができているという満足。
イ 福岡が応援えんしてくれることに対する喜び。
ウ 福岡にはがんばってもらおうという期待。
エ 自分はおくれをとっているのではないかという不安。
オ 人ごとのように余裕ゆうを見せる福岡に対する怒り。

問九 線部⑨「突然、なんだか黒いものがわいてきた。黒くて重い何かが、ぼくの心の中に広がっていく」とありますが、この時の「ぼく」の気持ちの説明として最も適当なものを次の中から選び、記号で答えなさい。

- ア 他の生徒が児島さんばかり応援してぼくに注目してくれないことに対する、ひがむ気持ち。
イ 児島さんの姿を見て、今度こそ児島さんといいところを見せようと、はりきる気持ち。
ウ 児島さんがぼくの走りについて、福岡と比較かくしてさげすむのではないかと、恐れる気持ち。
エ 何度もリレーをしてみてもぼくより早く走ることができる福岡に対して、うらやむ気持ち。
オ ぼくが思いを寄せている児島さんと福岡が仲良くしていることに対する、嫉妬じとする気持ち。

問十 線部⑩ 「あのとき、ぼくが消したかったのは、……ちっぽけな自分の姿だったのだろうと」とあります。この時

「ぼく」はどういうことに気づいたのですか。最も適当なものを次のなかから選び、記号で答えなさい。

ア ぼくはいつもいやなことがあるたびに「消しゴム」で消してきたが、それは実は傷つくことから逃げる自分を見たくなかつたのだということ。

イ ぼくは何かがあるたびに自分の「消しゴム」でいろいろなものを消してきたが、実は人間関係のわずらわしさを消してきたのだということ。

ウ ぼくはいつも目立たない存在であつたけれど、今回のリレーを通して、本当は目立ったかった自分を「消しゴム」で消してきただのだということ。

エ ぼくは脚の速い児島さんにあこがれてきたけれど、本当はあこがれの気持ちを「消しゴム」で消し去りたかったのだだということ。

オ 国語の時間にみんなに笑われても言い返す勇気が出ず、陸上競技でもうまくいかない自分の情けなさを「消しゴム」で消したかったのだということ。

平成二十六年度 和歌山信愛中学校 入学試験 中期日程

国語

解答用紙

受験番号

【一】

| | | | |
|----|-----|-----|-----|
| 問一 | (1) | (2) | (3) |
| 問二 | (1) | (2) | (3) |
| 問三 | (1) | (2) | (3) |
| 問四 | (1) | (2) | (3) |
| 問五 | (1) | (2) | (3) |
| 問六 | (1) | (2) | (3) |
| 問七 | (1) | (2) | (3) |
| 問八 | (1) | (2) | (3) |
| 問九 | (1) | (2) | (3) |
| 問十 | (1) | (2) | (3) |

| | | | |
|----|-----|-----|-----|
| 問一 | (1) | (2) | (3) |
| 問二 | (1) | (2) | (3) |
| 問三 | (1) | (2) | (3) |
| 問四 | (1) | (2) | (3) |
| 問五 | (1) | (2) | (3) |
| 問六 | (1) | (2) | (3) |
| 問七 | (1) | (2) | (3) |
| 問八 | (1) | (2) | (3) |
| 問九 | (1) | (2) | (3) |
| 問十 | (1) | (2) | (3) |

| | | | |
|----|-----|-----|-----|
| 問一 | (1) | (2) | (3) |
| 問二 | (1) | (2) | (3) |
| 問三 | (1) | (2) | (3) |
| 問四 | (1) | (2) | (3) |
| 問五 | (1) | (2) | (3) |
| 問六 | (1) | (2) | (3) |
| 問七 | (1) | (2) | (3) |
| 問八 | (1) | (2) | (3) |
| 問九 | (1) | (2) | (3) |
| 問十 | (1) | (2) | (3) |

【二】

| | | | |
|----|-----|-----|-----|
| 問一 | (1) | (2) | (3) |
| 問二 | (1) | (2) | (3) |
| 問三 | (1) | (2) | (3) |
| 問四 | (1) | (2) | (3) |
| 問五 | (1) | (2) | (3) |
| 問六 | (1) | (2) | (3) |
| 問七 | (1) | (2) | (3) |
| 問八 | (1) | (2) | (3) |
| 問九 | (1) | (2) | (3) |
| 問十 | (1) | (2) | (3) |

| | | | |
|----|-----|-----|-----|
| 問一 | (1) | (2) | (3) |
| 問二 | (1) | (2) | (3) |
| 問三 | (1) | (2) | (3) |
| 問四 | (1) | (2) | (3) |
| 問五 | (1) | (2) | (3) |
| 問六 | (1) | (2) | (3) |
| 問七 | (1) | (2) | (3) |
| 問八 | (1) | (2) | (3) |
| 問九 | (1) | (2) | (3) |
| 問十 | (1) | (2) | (3) |

| | | | |
|----|-----|-----|-----|
| 問一 | (1) | (2) | (3) |
| 問二 | (1) | (2) | (3) |
| 問三 | (1) | (2) | (3) |
| 問四 | (1) | (2) | (3) |
| 問五 | (1) | (2) | (3) |
| 問六 | (1) | (2) | (3) |
| 問七 | (1) | (2) | (3) |
| 問八 | (1) | (2) | (3) |
| 問九 | (1) | (2) | (3) |
| 問十 | (1) | (2) | (3) |

【三】

| | | | |
|----|-----|-----|-----|
| 問一 | (1) | (2) | (3) |
| 問二 | (1) | (2) | (3) |
| 問三 | (1) | (2) | (3) |
| 問四 | (1) | (2) | (3) |
| 問五 | (1) | (2) | (3) |
| 問六 | (1) | (2) | (3) |
| 問七 | (1) | (2) | (3) |
| 問八 | (1) | (2) | (3) |
| 問九 | (1) | (2) | (3) |
| 問十 | (1) | (2) | (3) |

国

語

模範解答

受験番号

【一】(24点)

| | | |
|----|-----------|---------|
| 問一 | ① りんじょうかん | (各1点×4) |
| 問二 | ⑤ 運賃 | (各2点×4) |
| 問三 | ② ほりゅう | (各1点×6) |
| 問四 | ③ いただき | (各2点×3) |
| 問五 | ④ もしゃ | (各1点×4) |

| | | |
|----|--------|----|
| 問一 | ウ | 意味 |
| 問二 | ② 晴耕雨読 | 意味 |
| 問三 | エ | 意味 |
| 問四 | ③ 無我夢中 | 意味 |
| 問五 | イ | 意味 |

| | | |
|----|--------------------------|---------|
| 問一 | ① 合格することだ | (各2点×3) |
| 問二 | ② 役割がある | |
| 問三 | ③ 友人に教えてあげた（友人から教えてもらった） | |

| | | |
|----|--------------|---------|
| 問一 | 人間とつゝ」といいう技術 | (各2点×3) |
| 問二 | イ | (3点) |

| | | |
|----|---|---------|
| 問一 | 長 | (各2点×3) |
| 問二 | 編 | |
| 問三 | う | |

| | | |
|----|---|---------|
| 問一 | ア | (各2点×4) |
| 問二 | エ | |
| 問三 | う | |
| 問四 | う | |
| 問五 | う | |

| | | |
|----|---|------|
| 問一 | ウ | (4点) |
| 問二 | イ | (3点) |
| 問三 | オ | (4点) |

【三】(36点)

もともと脚が速いほうではないぼくが、市内の陸上クラブの対抗戦に、リレーのメンバ－として出場することになったから。

勉強でも運動でもすべてにおいて「ふつう」でスターになれないから。

問二 イ (3点) 問三 オ (3点)

問四 ウ (4点) 問五 ウ (4点)

問五 ウ (4点) 問六 エ (3点) 問七 ウ (4点)

| | | |
|----|---|------|
| 問八 | エ | (3点) |
| 問九 | オ | (4点) |
| 問十 | ア | (4点) |
| | ウ | (4点) |

問 次の文章を読んで、考えたことを六〇〇字以内で述べなさい。

きみたちは将来、自分はこんな人間になりたい、こんな仕事についてみたい、という夢をもつてていますか？　あるいは自分がなりたいものに向かつて、地道な努力をかさねているかもしませんね。

たとえば、漫画家をめざして、勉強そっちのけでコツコツと漫画をかきためたり、サッカー選手を夢見てサッカー部に入り、毎日泥だらけになつて練習したり、あるいは海外留学を目標にして、人一倍、英語の勉強に力を入れてしたり——。その一方では、漠然とした将来の夢や希望はあるけれど、「どうしたら、その夢が実現できるかわからない」という人もいれば、自分が何になりたいのかわからず、もともたしている人だつているでしょう。いや、もしかしたらきみたちのなかには「将来の目標など考えたこともない」という人の方が多いのかもしれません。

実際、「いのちの授業」をして全国を回つている私は、小学校の子どもたちに「将来は何になりたいの？」とよく質問するのですが、「わからない」と首を横に振る子が意外と多いのです。この傾向は大学生にもよく見られます。私が働いている聖路加国際病院には毎年、医学生たちが実習にやつてきます。私は毎回、医師の卵である彼らにこうたずねます。

「将来、どんな医者になりたいの？」

すると彼らは「内科医です」「外科をやりたいんです」とは答えるのですが、かさねて私が、「では、どの病院の、どの先生のような医師になりたいと思つていてるの？」ときくと、きまつて困つたような顔をして口もつてしまいます。どうやら漠然と医師になりたいと思つてはいても、誰ぞれのような医師をめざしたいとか、医師としてどんな生き方をしたいのかについては、考えたこともないらしい。つまり、彼らは「ぜひ、あの先生のような医師になりたい」という理想のモデル像がみあたらぬまま、なんとなく医師という職業につこうとしているのです。

では私の少年時代はどうだつたのでしょうか？

実は私も小学校四年生までは、自分が何になりたいのかなどと考えたこともなく、「将来はお医者さんになろうかな」という気持ちがわいてきたのは、五年生も終わりごろでした。そのころ、わたしはある医師に出会い、強い印象が残つていたからです。

小学校四年生の時、私は急性腎炎じんえんというやっかいな病気にかかりました。そのとき、私を診てくれたのが安永先生という小児科こにんかの先生でした。

先生は、体に変調をきたし不安でいっぱいになつてている十歳じっさいの私を「必ず治るから心配しないで」と言葉少なく、しかし、力強く勇気づけてくださつたのです。先生から「動くと体に悪いから」と言われ、一日中床とに横になつたままの生活がつづき、ようやく、体を起こせるようになつてからも、外出は固く禁じられました。おかげで家の中から一步も外に出られない生活が三ヶ月もつづき、外で遊び回るのが大好きだつた私にとっては、まるで拷問こうもんのような毎日でした。そんなときも、安永先生は往診しんにこられるたびに、友だちと遊ぶこともできない私をやさしく慰めてくださいました。安永先生の適切な治療りょうじゅうのおかげで、私は元気を取り戻し、学校に通い始めました。そうした体験が強烈に残つていたので、私は「できることなら安永先生のようなお医者さんになりたい」と自然に思うようになつたのです。

もしきみたちは「将来、自分がどんな人間になりたいのかわからない」と思つてゐるのなら、「できることなら、自分はこの人のようになりたい」という手本になるモデルを見つけてほしいと思います。私がきみたちにモデルを見つけることの必要性を説くのには、理由があります。

それは、人間が「自分一人だけの考え方で生きていく」ことはとてもたいへんだからです。こうなりたい、と思える人のまねをする、つまり、モデルがいると、多くのことを学べます。でも、まるごとのまねでは、自分自身がなくなつてしまいますが——。目的の見えない人生というのは、真つ暗な闇やみの中を手さぐりで進んでいくのに似ています。しかし、自分がめざすモデルがいれば、人はそのモデルを目標にして前に進むことができるのです。

平成二十六年度 和歌山信愛中学校 入学試験 後期日程

作文解答用紙

* 一行目から書き始めなさい。題、名前を書く必要はありません。

五

受験番号

